

編集後記 —悲喜こもごも—

賜朋編集委員長 三宅成司郎（大学 30 期）

私が進学のために予備校通いをしていたのは 44 年前のことで、『次の年から共通一次試験という新しい試験制度が導入されるので、今までの一期校・二期校制度で受験できるのは今回が最後だ！』と予備校内で大騒ぎをしていた記憶がある。予備校は「今回、大学に受かれば不要なのだが念のため」と言いながら、マークシート方式の試験対策の授業も用意をしていた。それは、是が非でも合格させるための予備校の深謀遠慮だったような気がするが、今となっては知るよしもない。

それはさておき、予備校での成績を眺めながら指導講師（予備校にも担任の先生がおられたと思う）の方の意見も聞きながら受験する大学を自分で決めたのだが、『まず、工学部を目指すことにしよう。さて受験する大学は、大阪府立大学にしようか？大阪市立大学にしようか？』で大いに迷った。最終的には、受験科目中に古文があった市大を避けるという非常に安易な決め方をしたことを今も鮮明に覚えている。今から思えばではあるが、二つの大学を天秤にかけて選べるなんて、なんと贅沢な迷い方をしていただろう。

府大と市大が統合されるかもしれないと聞いたときに最初に思ったことは、『受験できる大学が一つ減ることになるので、受験生にとっては選択肢が狭まって受験が一層厳しいものになるんじゃないだろうか。』ということだった。それは、受験生にとって非常に悲しい出来事のように思えてならなかったのだが、いらぬ心配だったのだろうか。

一方、マンモス大学には通常は潤沢な運営資金・研究費が用意（*）されているだろうから、厳しい受験を勝ち抜いて晴れて大阪公立大学の学生となった方々にとって、十分な資金を背景にした先進教育を享受できる機会を獲得できたので喜ばしい限りである。また、先生方にとっても今までに比べると研究費獲得の道が広がって、より一層の先駆的研究を実施できるようになるのだろうと思うので、これも喜ばしい。

このように大学の統合は立場によって悲喜こもごものだろうが、多くの優秀な人材を世の中に輩出することや有意な学術研究・先進的な開発遂行によって、大阪公立大学が明るい未来を築く核となることを大いに望みます。

*）後日、海洋システム工学科長の橋本博公先生の寄稿文を拝読したところ、新年度の予算が昨年度に比べて大幅に減額されているということを知り、世の中はそんなに甘くないということを思い知らされた次第です。先生方には、負けずに頑張ってください！

賜朋会ニュース「賜朋」第 32 号

2022 年 5 月 30 日

発行：賜朋会（けきほうかい）

〒599-8531 堺市中区学園町 1-1

大阪公立大学大学院工学研究科

海洋システム工学分野気付

TEL/FAX 072-254-7461

Email: doso@marine.osakafu-u.ac.jp

<http://www.marine.osakafu-u.ac.jp/~alumni/>

郵便振替口座番号 00970-7-126500

りそな銀行深井支店 普通口座番号 0060109

加入者名「賜朋会」

KEKIHO

賜朋 第 32 号



北海道・大沼公園・09.6.2画

鴟朋会会長 岩崎 泰典(大学 20 期)

最近の私にとって老眼鏡と同じようにマスクは必需品であるが、声が聞きづらいし顔の判別が付きづらい。耳が遠く、物忘れが進んだ私には特に影響が大きい。アクリル板の囲いや交互発言しかできない On Line 会議などとともに、これから暑くなる季節にはマスクはやっかいな代物である。このマスク生活は、2019 年末に報告された新型コロナウイルスが始まりで、足かけ 3 年になる。感染症のパンデミックは、古くは紀元前のエジプトやギリシャで起こったとされている。科学の進歩により、パンデミック終焉までの時間は短縮されたようであるが、第七波も云われており、これからも暫くはマスクと共に生活していくのでしよう。

ただ、マスク生活にも効用があり、気温変化のせいかわれ年々例年に比べて長持ちした桜を団子無しで、じっくり観られた各位もおられたことと思います。造幣局の通り抜けも 3 年ぶりに開催されるようで、マスク生活で真の観桜をじっくりと楽しみたいものである。

さて、この桜花の下、140 年の歴史を持つ二大学、大阪府立大学と大阪市立大とが統合した大阪公立大学 (Osaka Metropolitan University) が船出しました。阪大、東大に次ぐ国公立では国内第三位の学生数 16,000 人のマンモス総合大学とのこと。両大学の学部は一部統合され、13 学部・学域に再編され、工学部は基礎から応用までの 12 学科となりました。新大学が目指すのは「総合知で、超えていく大学」である。

我が鴟朋会、船舶・海洋システム工学科は、市大に該当学科がないため、大きな変化はなく府大時代と同様の組織体です。ただ、新大学では、機械系学類 (機械・航空・海洋) の入試から以前の海洋システム工学科単独の入試になりました。学業以外のクラブ活動や同窓会の統合も完了または進みつつあり、今後、更により良い姿へと変身して行くことと考えます。

大学名が変わっても我が船舶、海洋システム工学科の古里は中百舌鳥キャンパスです。四年先には大阪公立大学海洋システム工学科卒の鴟朋会仲間を迎えます。同窓諸氏の益々のご支援とご協力をお願いします。

今号の鴟朋は新生「大阪公立大学」の海洋システム工学科、鴟朋会の記事が満載です。是非ご一読ください。

大阪公立大学の全体像とSDGs 戦略について

鷗朋会副会長 大塚 耕司 (大学 35 期)

2022 年 4 月 1 日、大阪府立大学（以下府大）と大阪市立大学（以下市大）が統合し、大阪公立大学（Osaka Metropolitan University, OMU）が誕生しました。ここでは、大阪公立大学の全体像を概観するとともに、今後の大学運営で重要な役割を果たす SDGs（Sustainable Development Goals）戦略についてご紹介します。

まず大阪公立大学の全体像です。学部学生入学定員は約 2,900 人で、阪大、東大に次ぐ国公立第 3 位になります。学生数は約 16,000 人で、もちろん公立最大です。学士課程は、現代システム科学域（現シス）、文学部（文）、法学部（法）、経済学部（経）、商学部（商）、理学部（理）、工学部（工）、農学部（農）、獣医学部（獣医）、医学部（医）、看護学部（看）、生活科学部（生科）の、1 学域、11 学部から成るフルラインナップの構成となります。なぜ 1 つだけ学域になっているのかについて補足します。11 の学部は、伝統的な学問分野で分けられた「学問分野志向」となっています。これに対して、現代システム科学域は、サステイナ

ブルな社会を創る人を育てるという「目的志向」となっていて、そのために必要なさまざまな学問分野の教育・研究を行うので、「学部」ではなく、より広い概念である「学域」としてしています。一方大学院は、上記学部に関連する 12 の研究科に、医学部の一部と連結するリハビリテーション学研究科、独立研究科である都市経営研究科と情報学研究科が加わり、15 研究科で構成されます。メインのキャンパスは中百舌鳥と杉本ですが、それ以外に府大の羽曳野、りんくうキャンパス、市大の阿倍野キャンパス、梅田サテライトがあり、2025 年に開設予定の森之宮キャンパスを加えると、6 キャンパス、1 サテライトを有することになります。最終的には羽曳野は閉鎖され、中百舌鳥に現シス、工、農が、杉本に法、経、商、理が、阿倍野に医、看が、森之宮に文、生科が、りんくうに獣医がそれぞれ

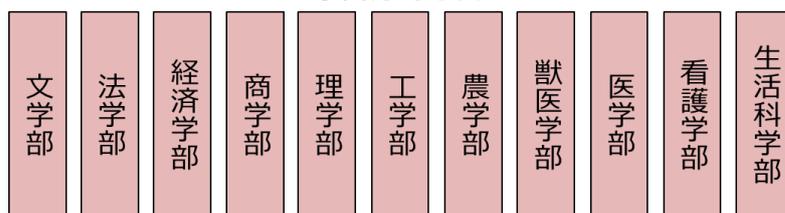
サステイナブルな社会を創る人を育てる

現代システム科学域

目的志向



学問分野志向



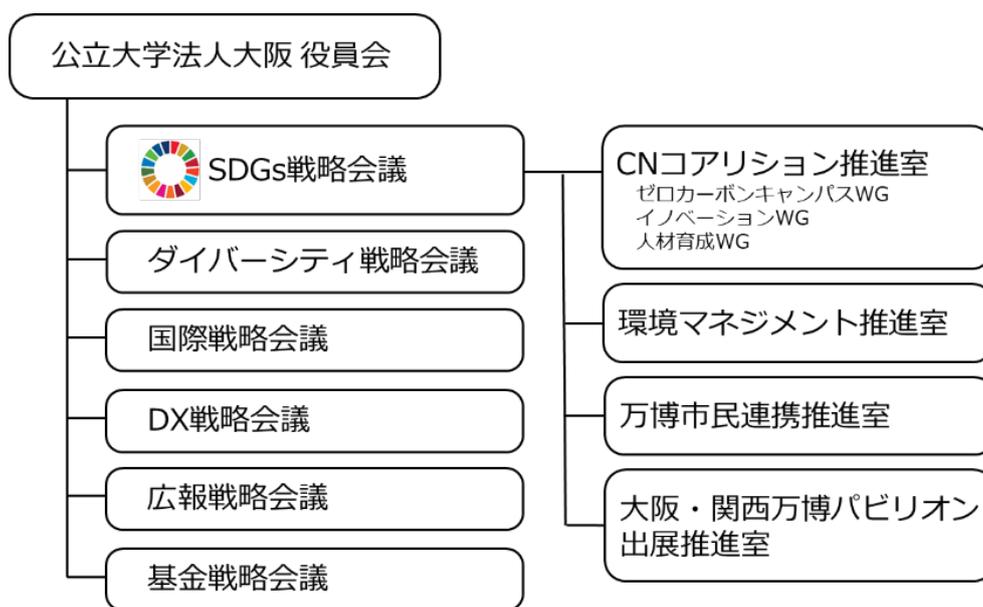
集約されます。また 2026 年には大阪公立大学工業高等専門学校（以下高専）が中百舌鳥に移ってくる予定となっています。

次に、大阪公立大学というより高専を含む公立大学法人大阪（以下法人）の SDGs 戦略について紹介します。法人理事長・理事から構成される役員会の直轄という形で、SDGs 戦略会議、ダイバーシティ戦略会議、国際戦略会議、DX 戦略会議、広報戦略会議、基金戦略会議の 6 つの戦略会議が置かれ、SDGs 戦略会議の下に CN（Carbon Neutral）コアリション推進室、環境マネジメント推進室、万博市民連携推進室、大阪・関西万博パビリオン出展推進室が設置されました。このうち CN コアリション推進室はすでに昨年 9 月から前倒しで動き出しています。というのは、昨年 7 月に「カ

「カーボンニュートラルに貢献する大学等コアリジョン」という全国 190 を超える大学が参加する組織が、文科省、経産省、環境省の 3 省主導で作られ、府大、市大、高専も参画したからです。全国のコアリジョンには 5 つの WG が設置されていますが、我々はそのうちのゼロカーボンキャンパス WG、イノベーション WG、人材育成 WG に参加し、精力的に活動しています。また環境マネジメント推進室は、これまで府大、市大それぞれが作成していた環境報告書を統合し、法人の環境報告書を作成することを当初の目的として設置されました。将来的には、ESG（Environment, Social, Governance）マネジメント推進室とし、法人の ESG 経営の推進母体へと発展させるというビジョンが示されています。さらに時限的に設置されたのが万博市民連携推進室と大阪・関西万博パビリオン出展推進室です。ご承知の通り 2025 年に開催される大阪・関西万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」で、2030 年を目途とした SDGs の達成に大きく貢献することが謳われています。法人もこの趣意に賛同し、2 つの側面から貢献しようと考えています。一つはボランティアリーダーの育成です。万博では 4~5 万人ものボランティアが必要と言われています。当然チームを統制するボランティアリーダーも多数必要となりま

す。そのようなボランティアリーダーを育成するプログラムを大学が提供し、育ったボランティアリーダーを各チームに派遣するというものです。この役割を万博市民連携推進室が担うこととなります。もう一つはパビリオンの出展です。関東の住宅メーカーである飯田グループホールディングスと市大は以前から地球や人にやさしい暮らしに関する共同研究を行っており、その成果をベースに共同パビリオンを出展することになりました。創エネや健康などを中心とした研究成果を世界に発信するという役割を大阪・関西万博パビリオン出展推進室が担うこととなります。

このように大阪公立大学は公立最大の知の拠点として出航しました。それゆえに、全国有数の高等教育機関として人材育成を行うこと、全国有数の高度研究機関として先端研究を行うこと、地域の信頼拠点として社会貢献を行うことなど、責任の重みは格段に増しています。ここで紹介した SDGs 戦略もその責任を果たすための施策の一つです。まだ生まれたてで足元がおぼつかないところもありますが、大阪公立大学の船出を暖かく見守っていただき、今後も引き続きご支援賜れば幸甚です。



森之宮キャンパスについて

2025年4月に開設が予定されています森之宮キャンパスについて、その概要をお伝え致します。

森之宮キャンパスは全学の基幹教育を担うべく、大阪の東部重要拠点の森之宮に約7,000人の教職員・学生が集える都心のメインキャンパスとして2025年に開設される予定です。また、1期に文学部・医学部リハビリテーション学科・生活科学部食栄養学科、1.5期に情報学研究科が移転されるとのことです。

交通アクセスの良いJR森ノ宮駅・地下鉄森ノ宮駅から北東へ徒歩約10分の位置に、地上13階（1期における校地面積：約19,300m²、校舎面積：約77,100m²）の校舎が建設されます。（1.5期工事では、JR大阪城公園駅からのアクセスが簡単になるように歩道橋工事の計画もあるようです。）



建設予定地は大阪城の真東に位置し、その東に生駒山を望む

図 森之宮キャンパス建設予定地の概略（赤枠の斜線部が建設予定地）

右の完成予想図（出典：大阪公立大学ホームページ）のとおり、都市景観に配慮されたデザインです。校舎の高さ60mは、地図枠内のイメージ図のように『大阪城天守閣から生駒山を眺めた時に、校舎頂上とその稜線を超えない。』ということの基本として決定されたそうです。

また、一般に開放される予定の図書館は学生の日常的利用を考えて基幹教育エリアの中央に配置されるそうで、同窓生と学生の交流の場としても大いに活用できるのではないのでしょうか。（鷗朋会 事務局）



森之宮キャンパス（完成予想図）

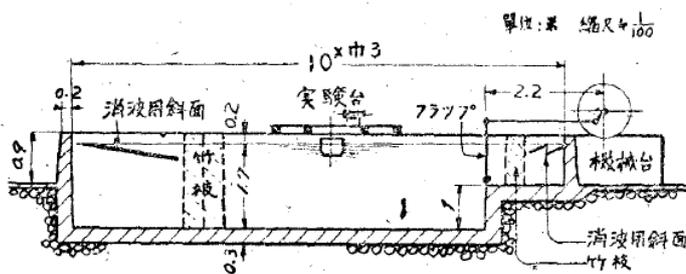
統合に伴う大型実験施設集約について

船舶試験水槽 75 年の歩みと 80 周年に向けて

大学 41 期 片山 徹

二大学統合に伴い工学部は中百舌鳥キャンパスに集約され、これまで杉本キャンパス（旧大阪市立大学）にある大型実験施設は中百舌鳥キャンパスの大型実験施設と集約されることになりました。ここでは、この大型実験施設の一つに含まれる船舶試験水槽について、75 年間の歴史を振り返るとともに、80 周年に向けての予定をご紹介します。

1942 年 3 月に、大阪工業専門学校に造船学科が増設されてから 5 年後の 11 月に初代水槽の船舶動揺試験水槽¹⁾が完成しました。この水槽は、今の場所ではなく現在の白鷺門を入って右側の国道 310 号線沿いがありました。この水槽はその名のとおり



り船を動揺させてその性能を評価する水槽で、全長 2m ほどの模型船を水槽長手方向横向きに設置し、フラップ式造波機で不規則波を与えてその運動を計測できました。1952 年に今の場所で水槽建設工事が始まり、1 年後の 3 月に全長 32m の水槽完成、その後増築されさらに 4 年後の 10 月に現在の水槽（全長 70m×幅 3m×深さ 1.7m）が完成しました。この時には水槽両側に窓があり、フラップ式造波機、消波ビーチ、消波装置、曳航電車が付帯²⁾しており、その 3 年後の 11 月には突風風洞³⁾が設置されました。ちなみに水槽南側の窓は 1969 年ごろには塞がれていたようです。平成となり、1992 年には最大速度 15m/s の高速曳引システム⁴⁾が導入され高速船の実験が行われるようになりました。2002 年には瓦葺の屋根を軽量スレートとし、その 3 年後に雨どい修理、4 年後に空調施設が完備され、その翌年にはすべての窓をアルミサッシとし換気システムを整えました。しかし、この数か月後水槽に藻が発生し、年に数回一般的なプールで実施されている塩素消毒をするようになりました。2012 年には水槽内壁と排水設備の補修、曳航電車の制御システムと造波機の交換、2013 年トロリーの被覆線化、突風風洞の改修、その二年後には消波ビーチを交換しました。造波能力が向上し送風機が使いやすくなったこともあり、洋上風力発電等の海洋開発関連の実験も行われるようになりました。2017 年の水槽設置 70 周年記念オープンラボでは、数年後に卒業生の皆さんのご協力のもと木造上屋の完全改修を実施したい旨をお話しました。

2015 年 3 月に、校舎の耐震補修の関係から課程教室が A6 棟から B4 棟へ移転しました。一方、実験施設（曳航水槽、回流水槽、共同実験室）は、従来の場所（A6 棟および A7 棟）にとどまりましたが、並行して工学実験棟将来計画 WG が立ち上げられ工学域実験棟（A7 棟船舶試験水槽、A8 棟生産技術センター、A10 工学実験集合等、高電圧棟）の未来像の議論を開始し、2015 年度には耐震強度調査も行い、船舶試験水槽については土台を取り変えるとともに建物外部の柱は取り除いて外壁を構造合板とする案を作成し、2018 年度には工事実施のための現地調査まで行いました。その結果をもって、2018 年 12 月に耐震化など再整備事業に係る基本計画策定のための趣意書を大阪府へ提出しました。ところが、翌年には大阪府立大学と大阪市立大学が統合することが決まり、工学部は中百舌鳥キャンパスに集約されることになりました。そのため、耐震化工事をあらため、杉本キャンパスの実験施設移転と同時に中百舌鳥キャンパス内実験施設の統合整備の検討を開始しました。船舶試験水槽棟は、大型実験施設整備候補

区域（府大池西側台地から北に向かって A6 棟西側まで）の真ん中にあつたため、他の場所へ移すことも提案されましたが、水槽建設、装置移設または買い替え、上屋建築等にかかる費用を勘案した結果、杉本キャンパスにある長水槽と角水槽を現船舶試験水槽近くに建設し、長水槽群を一体の建物で覆うことになりました。

2019 年、大学統合の話が出た直後から両大学にある水槽の整備に関する打ち合わせを開始しました。杉本キャンパスには、土木工学科河海工学研究室の研究施設（右の写真）として、全長 100m の大型二次元水槽（100m×3m×3m、コンクリート製、ピストン型造波機、自走車 2m/s）、波・流れ共存水槽（50m×2.5m×1.5m、コンクリート製、ピストン型造波機、自走車 1m/s、造流機 1.25m³/s）、中型二次元造波水槽（50m×1m×1.5m、片面ガラス張り、ピストン型造波機）、小型二次元造波水槽（20m×0.5m×0.6m、片面ガラス張り、フラップ式規則波造波機、造流機 0.5m³/s）、多目的平面水槽（26m×25m×1.2m、ピストン型造波機、造流機 0.99m³/s）の 5 水槽と水や泥などの分析可能な環境水域工学研究棟からなる水槽水理実験場があり、海岸工学的問題や沿岸域における水質・水理環境の保全に関する研究を行っています。話し合いの結果、杉本キャンパスの実験施設は、基本的な仕様はそのままに一部機能強化して新設または移設することとなりました。船舶試験水槽は、上屋の建て替えが中心で、送風機を使用することから他の水槽との間には仕切り壁を設置し、杉本キャンパスの施設に合わせて天井を高くするとともに両サイドの通路を拡張し、水槽東側には実験準備室、工作室、実験室、作業室を整備します。仕切り壁を隔てた北側には順に、中型二次元波流れ水槽、中型二次元造波水槽と小型二次元造波水槽、大型二次元造波水槽が並び、これら水槽は壁のない広い一つの区画にまとめられ、その北側に水質や生物の分析室等が東西に並びます。さらに西側の屋外には平面水槽が建設されます。



新大学における実験施設の整備工事は、A6 棟西側への新センター等の建設（赤色枠）、府大池西側台地の大型特殊実験施設の建設（紺色枠）、現生産技術センター跡地への水槽建設（緑色枠）の順に実施され、船舶試験水槽の工事は 2026 年度に竣工し 2027 年 4 月に完成します。各長水槽は前述のとおり仕様が固まっていますが、平面水槽については今後の研究動向を見ながら、どのような機能が必要になるかを継続して議論しています。稼働率の高い他にはない水槽にしたいと考えています。5 年後の水槽設置 80 周年には、きれいになった船舶試験水槽を皆さんに披露できることを楽しみにしています。



- 1) 菱田敏男：大阪工業専門学校の新動揺試験水槽に就て，造船協会雑纂，第 276 号，1949.
- 2) 大阪府立大学工学部 船舶工学科同窓会会誌，創刊号，p.2-8，1964.
- 3) 大阪府立大学船舶工学科同窓会ニュース「ふね」，第 25 号，p.10-11，2005.
- 4) 菱田敏男，富武満：規則波上の風圧モーメント，造船協会論文集，第 108 号，1960.
- 5) 池田良穂，片山徹ほか：高速艇の性能試験に関する研究（第一報），関西造船協会誌，第 223 号，1994.

中百舌鳥キャンパスについて

鷗朋編集委員長 三宅 成司郎 (大学 30 期)

中百舌鳥キャンパスの情報を頂きました。その情報によりますと、中百舌鳥キャンパス内に二つの新棟が建設されるそうです。一つは工学新棟 (仮称だろうと思います)、もう一つは生産技術センター棟です。

工学新棟は下図の赤枠で示した B4 棟の北東側 (B3 棟と B5 棟の間) に建設され、地上 7 階 (高さ約 30m)・延床面積約 15,000 m²、の建物になるとのことです。この新棟は、機械工学、電子物理工学、電気電子システム工学の 3 工学科が利用する予定です。

生産技術センター棟 (写真は新センター棟) は、下図の青枠で示した中百舌鳥門からの学内通路の正面に位置した場所に、地上 2 階建て・延床面積約 5,500 m²の建物として建設計画されています。ここには中百舌鳥キャンパス内の「生産技術センター」と杉本キャンパス内の「工作技術センター」の機能が集約され、新たな生産技術センターとして整備されるそうです。





左の写真のように、英語表記が「Osaka Metropolitan University」に変わりました。

なお、船舶試験水槽の北側にある現生産技術センターは取り壊されて、その跡地に大阪市大の水槽群が移設されますが、その詳細は片山徹先生寄稿の「統合に伴う大型実験施設集約について—船舶試験水槽 75年の歩みと 80周年に向けて—」をご覧ください。

大阪公立大学

海洋システム工学科の体制について

海洋システム工学科 学科長 橋本 博公

2022年4月1日、大阪府立大学と大阪市立大学が統合して誕生した大阪公立大学が開学の日を迎えました。学長は旧大阪府立大学の学長であった辰巳砂昌弘先生です。医学部を含む総合大学となり、学部定員数では国公立大学3位の規模となりました。2025年には約7,000人の教職員・学生が集うメインキャンパスとして森之宮キャンパスが開設予定です。新大学の誕生で教職員もお祭りムードといきたいところですが、新大学の準備に膨大なエネルギーを費やしたにも関わらず、新年度の各部局への予算配分は昨年度に比べて大幅に減額されており、統合によって教育研究の質や環境が良くなるという楽観論は見事に打ち砕かれました。「総合知で、超えていく大学」というのが新大学のキャッチコピーですが、運営コストの削減ば

かりに躍起になって、超えられていく大学にならないことを願うばかりです。どのような大学、企業でも合併後は混乱がつきものだと思いますので、我々教員は割り切って新大学での教育研究に注力していただくだけです。以下では、新たにスタートした海洋システム工学科について紹介します。

これまで新入生は、海洋システム工学課程、航空宇宙工学課程、機械工学課程から構成される機械系学類に所属していましたが、新大学では最初から海洋システム工学科に所属となります。大学入試は、一般選抜（前期）、一般選抜（中期）、総合型選抜（旧AO入試）の3種類となり、これまで以上にチャンネルが広がりました。募集定員は前期が10名、中期が19名、総合型選抜が4名の計

33名です。現在の学科の教員構成は表1のとおりです。新大学では、研究分野が研究グループという名称で統一されました。海洋システム工学科は5つの研究グループから構成されており、各グループに教授1名と准教授1名が配置されています。なお、昨年度まで海洋空間利用工学領域に在籍していた韓佳琳助教は、昨年度末で横浜国立大学に転出されました。新大学移行のタイミングで教員数が10名に減り、ただでさえ少ないマンパワーの不足をどのように補うべきか、学科長として頭の痛い問題です。また、助教が一人もいないという状況は教室として由々しき事態ですので、なるべく早い時期に新たな助教を迎えられるようにしなければなりません。

教員の体制を整えることは喫緊の課題ですが、博士後期課程に進学する学生を増やすことも、学科が存続・発展していくためには欠かせません。幸いなことに、現在は教員数を上回る12名の博士

後期課程在籍者がいます。文部科学省も博士後期課程学生の育成に力を入れ始めており、経済的な支援制度も充実してきました。あとは、博士後期課程を修了した学生を、企業や研究所が前向きに受け入れてくれるように働きかけていくことが重要と考えています。同時に、共同研究を前提とする社会人の博士後期課程への受け入れを進めています。

今後、国内の若年労働力人口は減少の一途となります。そのため、分野や業種を超えて優秀な学生の争奪戦が始まるものと予想されます。そのような状況下においても、造船所・重工業、船用工業をはじめとする海事産業を強く志向する学生を輩出し続けられるように、全教員が一丸となって教育研究活動に邁進していくつもりです。新たな門出を迎えた海洋システム工学科のさらなる発展のために、今後とも変わらぬ御指導と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

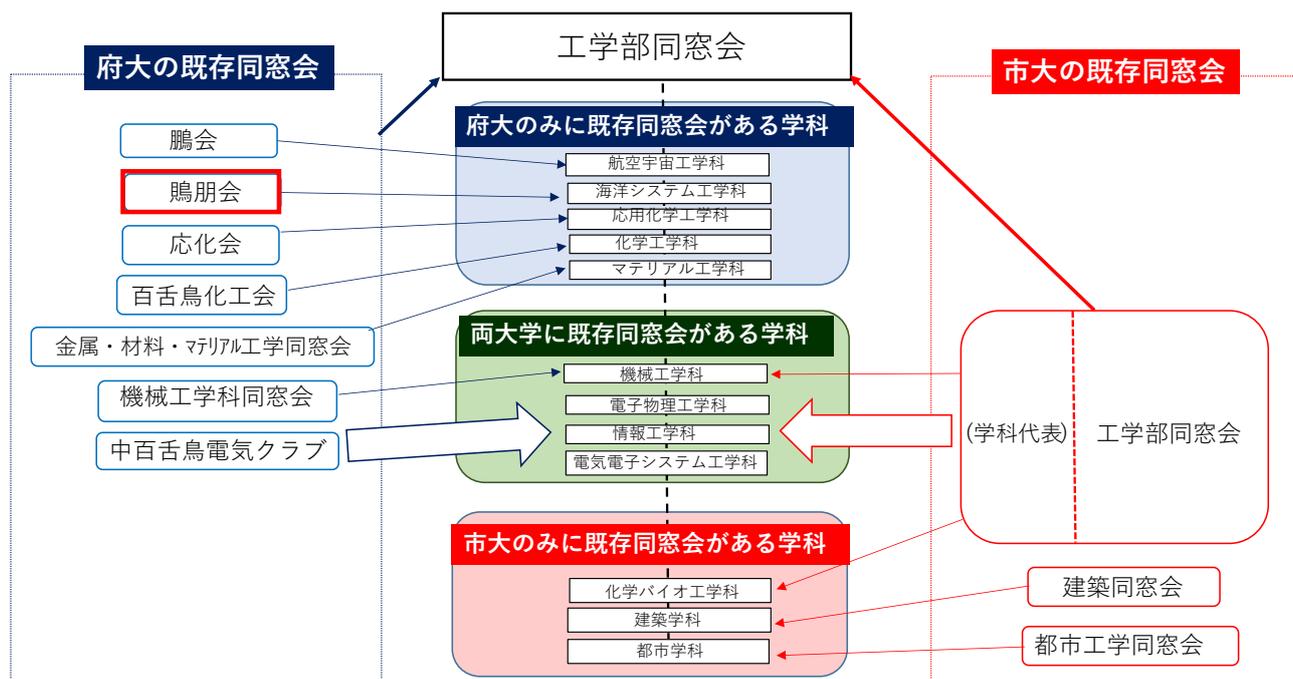
表1 海洋システム工学科の教員一覧

研究グループ	職名	氏名	主たる研究内容
海洋システム計画学	教授	有馬 正和	海洋システム計画学, ヒューマン・ファクター, 海中ロボット工学, 海洋政策研究
	准教授	新井 励	海洋環境計測, 海洋音響工学, 海洋光学, 計測工学
海洋輸送工学	教授	片山 徹	船舶工学, 高速艇工学, 海洋工学, 浮体運動学, 復原性, 操縦性, 推進性能, 耐航性能, 水槽試験
	准教授	生島 一樹	構造工学, 船体構造解析, 非線形有限要素解析, 大規模数値計算, 並列計算
海洋空間利用工学	教授	中谷 直樹	海域環境モニタリング, 海洋環境計測, 海洋生態系工学, 生態系モデル, 海洋資源工学
	准教授	柴原 正和	溶接力学, FEMによる熱弾塑性解析, 画像計測, 船舶海洋構造力学, 大規模構造解析
海洋資源工学	教授	橋本 博公	海底資源工学, 数値流体力学, 制御工学, 自律運航船, 自律型潜水機, マルチフィジックス, 模型試験, 実海域試験
	准教授	二瓶 泰範	海洋構造物に働く流体力, 渦励振問題, ヨットの設計開発, 浮体式洋上風力発電
海洋環境工学	教授	馬場 信弘	海洋環境学, 海洋流体力学, マリンエコシステム, 海洋循環
	准教授	坪郷 尚	造波抵抗, 海洋構造物, 超大型浮体式構造物, 流力弾性

統合後の工学部の同窓会について

大阪公立大学の開学にあたり、両大学の工学部同窓会・学科単位同窓会は統合後のあり方について模索しています。下図のように、両大学の工学部にある既存同窓会は『工学部同窓会』の下にまとまります。また、後述するとおり両大学の関連学科に同窓会が存在する場合はその二つは統合されますが、市大に関連学科が存在しない『**鷗朋会**』は現状のままの形で存続します。

新大学同窓会と既存同窓会との関係



以下、同窓会の統合に関する検討の概要についてお知らせ致します。

両大学同窓会の現状

両大学の同窓会の現状とその違いがわかるように、下表のように項目別にまとめてみました。

比較項目	府大	市大
学科単位同窓会	あり	なし
工学部同窓会	消滅	あり
構成員	卒業生と教職員	卒業生のみ（個人単位で工学部同窓会に所属）
資金	単位同窓会で徴収	入学時に徴収（¥30,000）
会員管理	各学科単位同窓会	工学部同窓会

統合後の同窓会について

統合後の同窓会は、上図の真ん中のような組織になりますが、主な点について以下にまとめました。

- ・両大学の関連学科を統合した学科単位同窓会を構築する。関連学科が存在しない鷗朋会は、現状維持とする。
- ・会員は卒業生と教職員とする。
- ・学科単位同窓会の集合体として工学部同窓会を構成する。
- ・各学部同窓会の集合体として全学同窓会「大阪公立大学校友会」を構成する。

工学部同窓会について

工学部同窓会の役割を明確にしておくことや運営資金の捻出方法など現在も協議中ですが、大凡の方向について以下にまとめました。

- ・役 割（協議中）
 - －校友会、学科単位同窓会との連絡調整
 - －学科単位同窓会の所掌範囲外での在学生・卒業生へのサポート
 - －学科単位同窓会支援：Web、会誌がない同窓会に対して共同 Web 運営、共同会誌発行
 - －工学部・工学研究科への研究支援
- ・資 金（協議中）
 - －学科単位同窓会からの拠出金
- ・その他
 - －学科単位同窓会の賛同が得られるまで拠出金は不要のため、事務局は設けない。

以上
(賜朋会 事務局)

令和 4 年春の叙勲

奥野先生が瑞宝中綬章を受章

2022 年 4 月 29 日、令和 4 年春の叙勲受章者の発表があり、奥野 武俊 先生が、長年にわたる教育研究への多大なる功労が認められ、瑞宝中綬章を受章されました。

奥野 武俊 先生は、昭和 44 年 3 月に大阪府立大学工学部船舶工学科を卒業し、昭和 46 年 3 月には大阪府立大学工学研究科修士課程船舶工学専攻を修了されました。その後、昭和 46 年 7 月 1 日より大阪府立大学の助手に着任され、同大学講師、助教授を経て平成 3 年 4 月に教授に就任されました。船舶海洋工学、可視化情報学、海洋環境学と幅広い学問分野で先進的な教育研究活動を行い、数々の成果をあげられました。また、平成 18 年 4 月に工学研究科長に選出され、平成 19 年 3 月に大阪府立大学名誉教授の称号を授与されました。さらに、平成 19 年 4 月から理事・副学長に就任し、平成 21 年には大阪府立大学理事長・学長に選任されました。平成 27 年 3 月に任期を終えるまでの 6 年間に、学士課程教育の大幅な変



賜朋会からお花を贈らせていただきました。

更を伴う大学改革を実施され、また大学の設立団体である大阪府との関係を密にすることで大阪における公立大学の存在意義を高めることにご尽力されました。

我々の恩師が、名誉ある勲章を授与されたことは大変喜ばしく、賜朋会、同窓生にとりましても嬉しく誇らしいことです。謹んでお慶び申し上げます。

中谷 直樹 (大学 45 期)

追悼



田口賢士 名誉教授

鴟朋 30 号では、田口賢士先生の追悼特集記事を掲載しました。その寄稿者のお一人の大学 22 期三宅孝治様は岡山地区の中百舌鳥会のまとめ役ですが、三宅様より『特集記事を読まれた大学 5 期の福島義倫様よりお便りを頂戴した。』との連絡を受けました。そのお便りには田口先生との思い出のやりとりが綴られていましたので、三宅様への私信ではありましたが福島様に了承を頂き、その全文をここに紹介させていただきます。

編集委員長 三宅 成司郎 (大学 30 期)

拝啓、朝夕は寒いぐらいの時候になりました。

船舶工学科の広報誌(けきほう 30 号)を、拝読致しました。田口先生とのお付き合いについて、懐かしく心温まる記事に感服致しました。家内が脳梗塞で倒れ、暗い気持ちで日々を過ごしておりましたが、何か薄日がさしたようで頑張ります。

小生が入学した時(S28 年)に、先輩(2 回生～4 回生)達がロゴスで歓迎会をしてくれたのが昨日のこのようです。入学当時は至誠寮生活でしたので、ご馳走にありつけた気分でした。田口先生、田中先生、福本先生は当時助手で友達のような存在でした。教授は岩佐、菱田、赤崎先生だったと記憶しています。

2 回生(専門課程)になって田口先生、田中先生、福本先生とお話をする機会が多くなり、その時に田口先生が岡山出身だと分かりました。我々 5 期では、岡山出身は小生一人でした。田口先生が『福島君は、高校はどこだ?』と問われたので、『瀬戸高校です。』と答えたところ、『そんな田舎高校で、良く府大に入学できたもんだ。』と、不思議がられたものでした。

後年先生がサノヤス水島造船所に来られたとき、先生は『実家に行ってみよう。』と仰いました。案内して足守の北(場所不明)のご実家付近まで行ってみましたが、すでにその実家はなくなっていました。『ここは、思い出の場所としておく。』と寂しそうに言われましたので、小生まで寂しい気持ちになりました。貴兄の記事を読み、在りし日の田口先生がよみがえりました。

家内の世話があって、中百舌鳥会にも参加できず残念です。年末にかけていろいろ行事が重なり大変と思いますが、コロナに負けず頑張ってください。中百舌鳥会の皆様によろしく。

敬具

大学 5 期 福島義倫

(大学 22 期三宅孝治様へのお手紙を編集したものです)



卒後 40 年 田口先生・田中先生・外山先生を迎えて (浜寺近くの旅館にて)



大阪府立大学・大阪公立大学に思うこと

「船舶工学科」から「海洋システム工学科」への改称の時も感じましたが、統合によって慣れ親しんだ名称が変わることに一抹の寂しさを感じます。とはいえ、私自身は入社してから今までに所属する会社の統合を2回経験しましたが、統合によるメリットは非常に大きいと思います。

最近、ある会社のHPに高校生が答えた「興味のある大学」(公立大学)のランキングが掲載されており、大阪市立大学と大阪府立大学が1位、3位となっていました。統合した大阪公立大学がより魅力的な大学となることを期待しています。

ジャパン マリンユナイテッド株式会社 牧野 功治 (大学41期)

大阪公立大学の開学初日、ネット・テレビのニュースで大々的に報道されて誇らしく思いました。報道では、学生総数が日本の国公立大学では3位となり、新キャンパスも都心に建設される予定で、多数の研究分野で大きな成果が期待されるとのこと。

しかし、大阪市立大学との統合情報が流れた当初、あまり賛成ではありませんでした。学生時代だった1990年代では大阪府立大学と大阪市立大学の交流戦もあってか、大阪市立大学をライバル視していたからです。

そんな私個人の思いとは裏腹に、大阪公立大学は日本国内で名実ともにビッグ大学となった印象です。近い将来、理系・文系での世界大学ランキング上位に名を連ねるのではと期待するばかりです。

日立造船株式会社 新里 英幸 (大学44期)

鷗朋22号の表紙絵紹介



『北海道・大沼公園』 大学1期 池島 彊

13年前、金婚式の記念で行った時の作品です。寒い時でしたが、3泊4日の楽しい旅行でした。

鷗朋会からのお知らせ

会費納入のお願い

2022年度(2022年4月～2023年3月まで)の会費納入をお願いいたします。なお、すでに2022年度の会費を納入いただいている方には、請求書を同封しておりません。また払込みの手間が省ける口座振替もご利用いただけるようになりました。所定の口座振替届書の提出が必要ですので、ご希望の方は事務局までメール、電話、FAX等でご連絡下さい。後日、口座振替届書を郵送させていただきます。「鷗朋会」年会費は、**3,000円**です。

表紙絵・原稿募集!

是非、事務局までご投稿ください。

訃報

造船 4期	泉 江三氏	(2021年1月29日)	大学 14期	大橋 多賀雄氏	(2021年6月23日)
造船 4期	田淵 隆之氏	(2021年2月26日)	大学 16期	山下 真夫氏	(2021年2月27日)
大学 10期	佐伯 栄一氏	(2021年9月8日)	大学 26期	津田 信也氏	(2021年9月5日)
大学 10期	日比 輝美氏	(2021年7月22日)	大学 31期	大野 敏男氏	(2020年10月26日)
大学 11期	鶴飼 宏氏	(2021年)			

本会はこの訃報に接し、謹んで哀悼の意を表します。